

Autodesk University 2020

Session ID BES472915

製造業と建設業における3D活用の融合 「Inventor + Revit + VRED」 InventorでBIM対応の
3D設計 +Revitモデルとの連携方法



Nov 17, 2020

IHI Power Systems Co., Ltd.

Kazuhiko Fukuoka

Erection Engineering Group Plant Engineering Department

Power Systems Plannts Division

Autodesk University 2020

About the speaker

Kazuhiko Fukuoka

2020 福岡和彦

IHI Power Sysytems Co.,Ltd.

Senior Assistant Manager



最初にスピーカープロフィールです

今まで新潟原動機という社名で講演などを行って参りました 福岡と申します

2020 年 社名が I H I 原動機へ変わっております

2013 年 2015 年 A U Jでの講演を行わせていただいております

2014 年 初めて米国ラスベガス AUへ参加し、米国 AUの操壮大さに魅了されました

2018 年 日本の製造業としては初の米国 A Uへ SPEKERとして挑戦し世界中のユーザーとの意見交換を体験しています

Autodesk University 2020



本日のセッションは、INVENTOR と REVIT と VRED を連携させて
製造業だけでなく、建設業でも、これらの道具の有効性をご理解いただくための
事例紹介と提案型のプレゼンテーションで進めてさせていただきます

そもそも製造業でありながら、BIMを評価する実績あるの？と思われる方も
多いと思います

私は15年以上前から、製造業用向け3D CADを使って、建築、土建、
プラントの設計を行ってきました

これらのイメージ図は、すべて実際の設計モデルと経験した現場の写真を紹介
しています

Autodesk University 2020



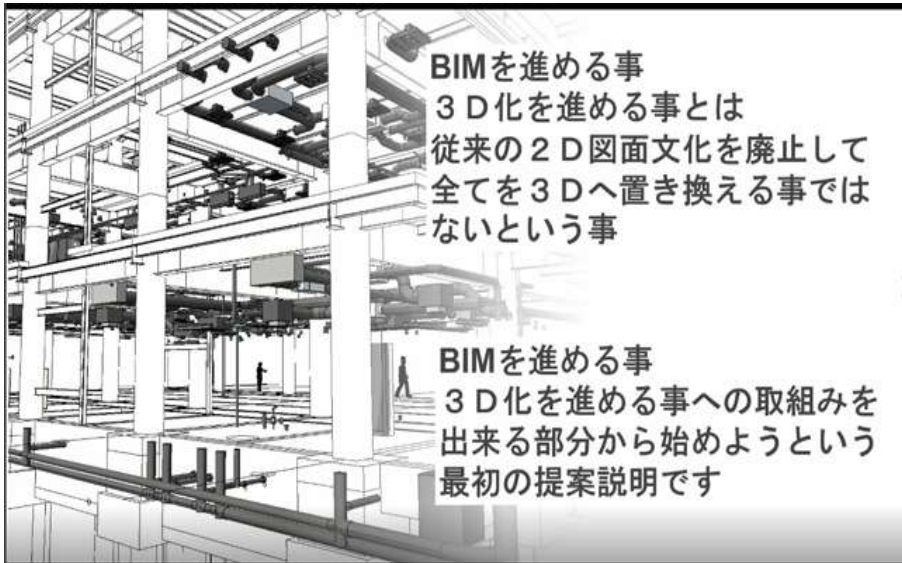
昔の先人たちは、3Dなどという道具の無い環境で
手書き2D図面でモノの設計を行っていました
職人の技術で、図面にはない部分を頭の中で描き、モノづくりを行っていました

2年前に、初めて中国 上海を訪問して講演させていただく機会がありました
圧倒的な革新的スピードで、ものづくりを進めている中国の方に
中国の製造業には、2D図面の文化がないから、3Dがものすごいスピードで
浸透したのかを聞いてみました

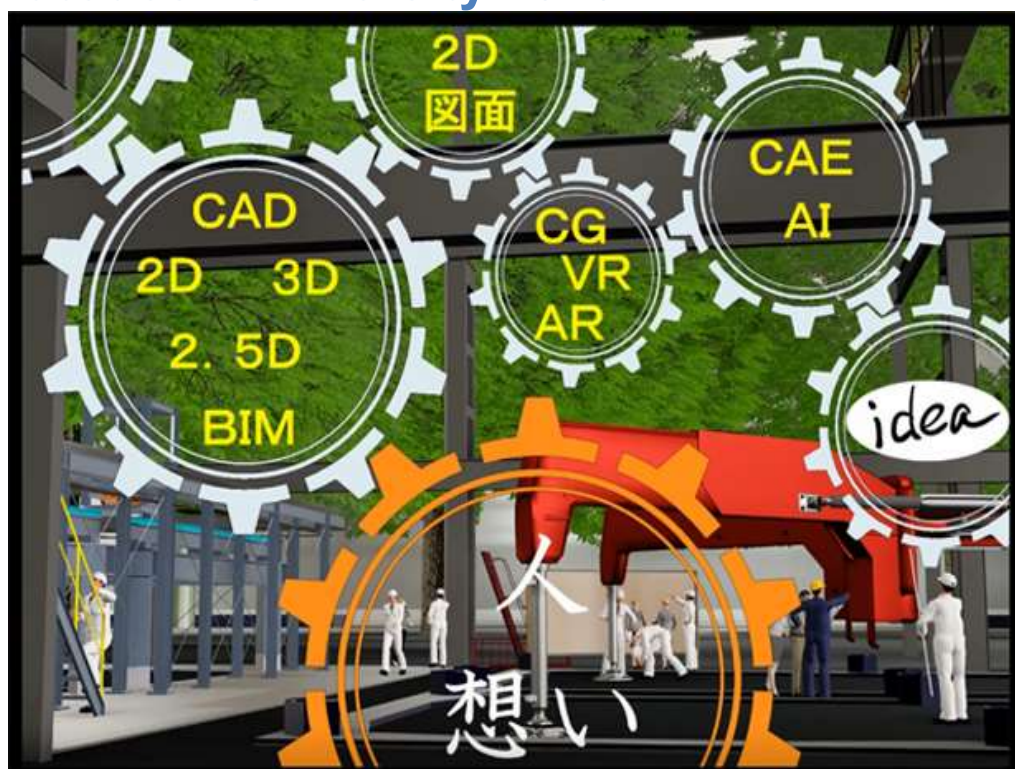
写真は中国の製造業、造船業の設計者の方々ですが、見ておわかりのように
笑って挙手をしていただいています。

ものづくりには、2D図面が必要だという事です

Autodesk University 2020



Autodesk University 2020



我々は、次の世代へ 多くの技術革新を有効に使える環境と文化を継承していかなければなりません。

何のために変革するのか？

仕事を「楽」にするため



楽 = 効率化

楽 = 楽しい

夢中になれる環境を創る